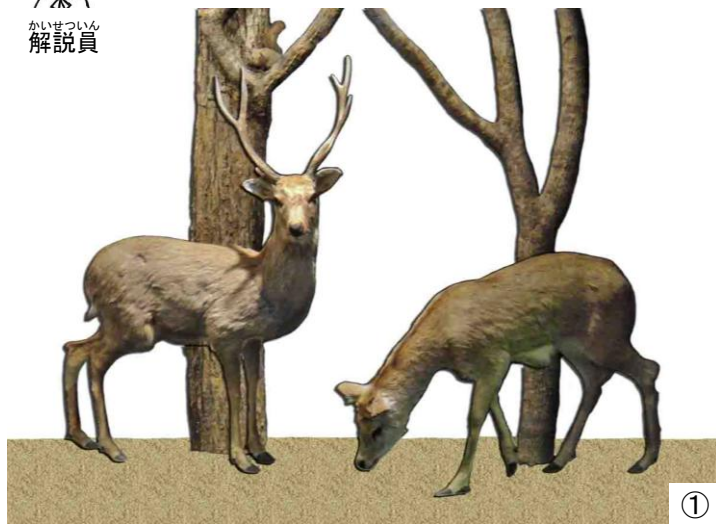


## ニホンジカ



解説員

ニホンジカとはどのような生き物でしょう？



## ニホンジカ (ウシ目シカ科)

◆**体長** (鼻先からしりまで)

オス 90~190cm※

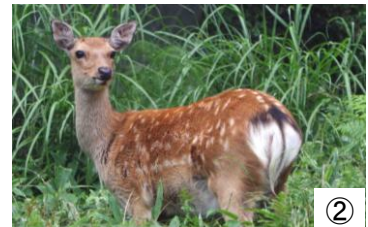
◆**けん高** (足先からかたまで)

オス 70~130cm※

◆**体重** オス 50~130kg※

※メスはオスの3分の2の大きさ

◆**毛の色** 冬毛は全体的に灰色をおびたこげ茶色です  
 【写真①】。夏毛は赤茶色に白いまだら模様があります  
 【写真②】。しりには白い模様があります。



◆**角** オスだけが持ちます。毎年春に落ち、初夏に新しくのび始めます。秋ごろまではやわらかく、毛の生えた皮ふにおおわれています(ふくろ角と言う【写真③】)。秋、オスはかたくなった角を木にこすりつけ、皮を落とします(角トギと言う)。

◆**シカの一生** シカの子どもは春から初夏にかけて産まれます。メスはメスグループでくらし、オスは1~2さいくらいまで母親と生活した後、オスグループに入ります。オスは秋になるとグループをはなれ、角を激しくぶつけ合いながらメスをめぐってたたかいます【写真④】。オスは最大15さい、メスは20さいくらいまで生きています。



◆**シカと人間** シカは私たち人間にとって昔から身近な動物であり、肉は食料、皮は衣服、骨は道具などとして使われてきました。また、神様のつかいと考えられたり、おぼんには鹿おどりがおどられたりもします(鹿と書いて「しし」と読む)



【写真⑤: 田野畑村・菅窪鹿踊の頭】。実は今、この“シカの数”があまりにも増えすぎたために、大きな問題が起きています。

菅窪鹿踊・剣舞保存会蔵

◆**シカ問題** シカは草地のある森林でくらし、その一日は食べ物探しと食事の時間でほぼ終わります。食べ物は、草、樹木の葉や樹皮などほとんど全ての植物です。シカが増えすぎると、田畑の作物がひ害を受けます。また森では、植物はもちろんのこと、植物に囲まれてくらししていたこん虫や動物たちまでもが姿を消してしまいます。

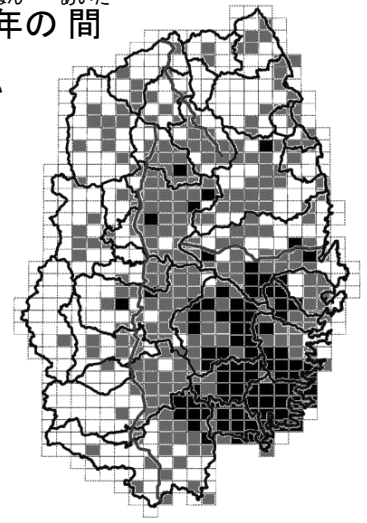


⑥

【写真⑥: シカに皮を食べられた木。いずれかれてしまう】

◆**岩手県のシカ** 右の図は平成18年(■)と平成19年~24年の間

(■)に岩手県内で目撃されたシカの分布図です。わずか6年間でシカが県内全域に広がったことがわかります。



シカ問題を解決するためにはシカの数进行管理する必要があります。ただし、むやみにつかまえると地域から全くいなくなるかもしれません。シカと上手く付き合っていくにはどうしたらよいか、考えてみましょう。

写真②・③・⑥ 撮影 佐藤嘉宏氏 図 『第4次シカ管理計画』岩手県 2013年

参考 『野生動物と生きる: 岩手のシカとクマ 岩手県立博物館第61回企画展図録』岩手県立博物館 2009年 他

らいげつ がつ  
来月(6月)の  
けんぱくものしりシートは  
たいけんがくしゅうしつ  
体験学習室-12だよ!  
おたのしみに!



モッチャン



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34  
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214  
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>